

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	MOTIV TX1	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.540	ΔRG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：TX1

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **3-3/4** インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：SX1

フレアーの幅 インチ

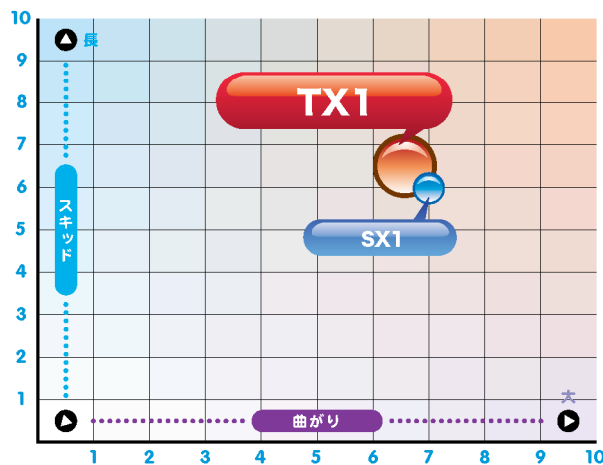
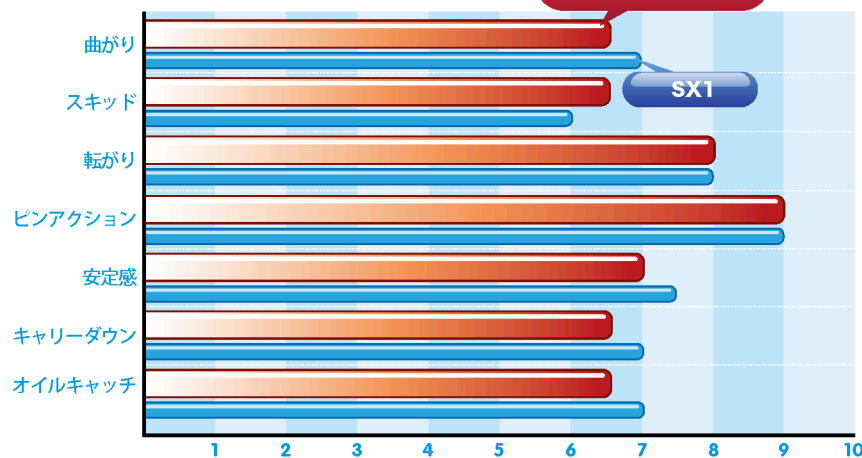
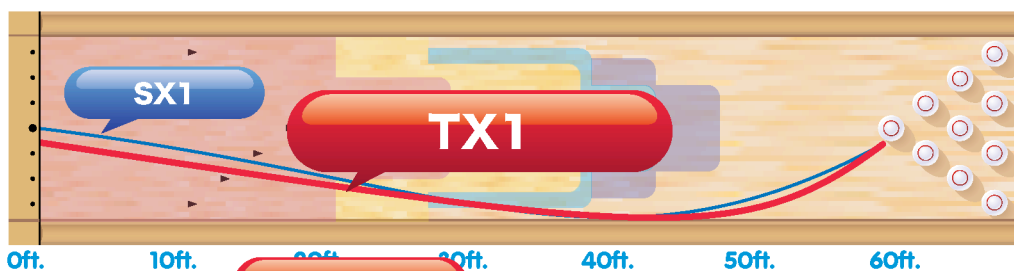
PAPからピンとの距離 **3-3/4** インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レングス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

旧ブランドウィック社が生産拠点としていたミシガンの工場から、最先端テクノロジーでカバーストック自体にプリントする「ウレタングラフィック」"Neo Mark"とオイルの吸収率を下げながら耐久性をとパフォーマンスを兼ね備えた耐吸油性カバーストック"MOtivATOR-X"とを融合させ、ABSに新たなブランドMOtivが加わりました。Neo Markの発想は、キャッチを担うカバーストック自体の刻印をなくし、表面の凹凸をなくすことが、より常にカバーストックとの接地面積を増やすこと。所謂、トラックエリアに刻印部分有り無しに関わらず、安定したリアクションを求めた結果と言えるでしょう。

このTX1は同時発売されたSX1とは異なり、直進性を保ち、柔らかいレイトリアクションを求めたスペックとなります。SX1のみみられたミッドエリアでのフック部分の長さから一変し、TX1はRG:2.54、ΔRG:0.052に見られるように高慣性で軸移行度を遅らせ、ボールが持つモーションポテンシャル自体のエネルギーを先まで保ちながら、バックエンドで柔らかいリアクションを感じることができます。

表面加工は#1000アブラロンポリッシュですが、十分なスキッドも確保でき、SX1同様転がりが良く、その転がり感は薄めのピンヒットには柔らかい、かき回すような粘り強いアクションへと連動しています。

このTX1もミディアムコンディション推奨ですが、投球後パワートルクを手前に出したい時は#2000番アブラロン、#1000番アブラロンと番手を調節すればヘビーオイルにも十分対応することができます。

新たなテクノロジーMOtivの性能をその手でお試ください。

特記事項

このTX1は直進性とバックエンドでの柔らかいリアクション。同時発売のSX1と併用することにより、対応は大幅に広がります。